

交流

大学間国際交流協定締結

五月五日、ウズベキスタン国立音楽院との大学間国際交流協定を締結した。

六月三十日には、リヒテンシュタイン国立大学との交流協定も締結した。本学が締結した国際交流協定は二二カ国一〇大学等。

大学独自で  
地域開放事業を推進

本学では、今年度から自主事業となった文科省大学等地域開放特別事業を大学独自で推進する方針のもと、美術学部が取手校地で二事業（協力・取手市教育委員会）、芸術情報センターが上野校地で二事業を開催した。

美術学部では、夏休み七宝体験「自分のキーホルダーをつくる」(七月二十六日から三日間)と夏休み親子で漆芸体験「漆を金と貝で飾る」(七月二十九日から八月五日まで二日間を三回)の二事業を開催した。「七宝」は、今年初めての企画で、小学生と保護者を対象に一五組三〇名を募集したところ、六四組もの応募があり抽選となった。参加者の感想は「様に、楽しく、またやりたい。」「漆芸」は小学二・三年生と保護者(各回一〇組計六〇名)が対象で、今年で四回目。十月には取手市教育委員会の協力を得て、市内で作品展示会を開催している。

芸術情報センターでは、デジタル・レコーディング&CDジャケット制作実習「デジタル・レコ

ディングで音楽CDを作ろう!!」(七月二十日から四日間)と大型CGプリント制作実習「コンピュータで大きな絵をかこう!!」(七月二十六日から五日間)の二事業をいずれも小学四年、六年生を対象に開催した。「CD」は、音楽環境創造科と写真センターが芸術情報センターの施設を利用して実施制作したもので、今年が初めての企画。「CG」は、今年で四回目を迎えた企画。いずれも作品は学内展示と芸術情報センターの本ホームページで公開



十六年度東京芸術大学  
公開講座開講

毎年、夏から秋にかけて東京都民及び取手市民、またはその周辺に在住する方を中心として東京芸術大学公開講座を開講している。平成十六年度も美術学部一三講座(うち取手校地開講分は四講座)、音楽学部一二講座を開講した。陶芸初級(手びねり)には募集人員の倍以上の応募があり、抽選となった。このほか、抽選、あるいは定員を満たした講座は、美術学部では油画(前後期)、スクリーンプリント実技、銅版画実技、音楽学部では、さくら、春の海を弾こう、ひばらしをひいてみよう、

受章

ちんとんしゃんを楽しく!、日本歌曲を歌おう、パッパを弾こう、はじめての中国琵琶、オルガン音楽を知ろう、指揮法の名講座。

山本邦山教授が  
紫綬褒章受章

平成十六年春の褒章において、人間国宝の山本邦山(泰正)教授(邦楽科・尺八)が紫綬褒章を受章された。

運営

「東京藝大の  
ガラス作家たち」展開催

四月二十四日、五月九日まで、大学美術館陳列館において本学出身のガラス作家、デザイナー、スチンドグラス作家など五〇名が出品する「東京藝大のガラス作家たち」展が開催された。この展覧会は、平成十七年四月から大学院美術研究所(修士課程)にガラス造形講座が開設されることになったのを記念して行われたもので、ガラス工芸、立体造形、プロダクト製品、スチンドグラスなど、幅広い作品七〇点余りが展覧され、出品者は工芸科のほか、日本画、油画、彫刻、デザイン、建築、芸術学の各科にわたっていた。入館者は、二週間という短期間にもかかわらず、約七〇〇人にもおぼろガラス愛好家、専門家、ガラス専攻の学生たちに交じって、一般の

方々も多く観覧され、ガラスに対する関心の高さがうかがいしれた。また、開催初日には、「ガラスは今」と題して出品作家によるシンポジウムが美術学部の講義室を利用して行われ、参加者は立ち見もするなど二〇〇名を超えた。講演会では、日本のガラスについての独自性と歴史や、生活文化のなかでの芸術という視点からの作品紹介などが行われたのち、ガラス作品を愛好する立場の方々からの質問や、ガラスを学ぼうとする学生からの意見があり、今後のガラスについての期待や思いが伝わるシンポジウムであった。



「賢治宇宙曼茶羅」  
舞台美術・衣装デザイン展  
開催

六月七日から六月十一日まで美術学部・総合工房棟デザイン科ブレゼンテーションルームにおいて「和楽の美」邦楽劇『賢治宇宙曼茶羅』の舞台美術・衣装デザイン展を開催した。これは、邦楽アンサンブルとして企画された「熊野物語」竹取物語に次ぐ第三弾として五月七日に開催された同邦楽劇の舞台美術・衣装デザインを担当した美術学部デザイン科が、演藝芸術センター、音楽学部邦楽

国立大学法人  
東京芸術大学設立

平成十六年四月一日、国立大学法人法に基づき、国立大学法人東京芸術大学が設立された。役員等は以下のとおり。

(平成十六年七月一日現在)

役員

- 学長 平山 郁夫
- 理事(教育担当)・副学長 宮田 亮平
- 理事(研究担当)・副学長 野田 暉行
- 理事(総務担当)・副学長 太田和良幸
- 理事(学長特命担当) 福原 義春(株)資生堂名誉会長
- 監事 東條伸一郎 弁護士、明治学院大学教授
- 監事 竹内 雄也 税理士

経営協議会

- 学長 平山 郁夫
- 理事(総務担当)・副学長 太田和良幸
- 理事(学長特命担当) 福原 義春
- 美術学部長 六角 逸文
- 音楽学部長 川井 學
- 外部委員 石田 義雄
- 外部委員 東日本旅客鉄道(株)取締役副会長
- 外部委員 海老沢 敏(財)新国立劇場運営財団副理事長
- 外部委員 佐々木正峰(独)国立科学博物館長
- 外部委員 高階 秀爾 大原美術館長
- 外部委員 五井 賢一
- 外部委員 (財)文化財保護、芸術研究助成財団専務理事
- 外部委員 根本 二郎 日本郵船(株)名誉会長
- 外部委員 園田 秋雄
- 会計課長

## 教育研究評議会

学長 平山 郁夫  
 理事(教育担当)・副学長 宮田 亮平  
 理事(研究担当)・副学長 野田 暉行  
 美術学部長 六角 鬼丈  
 音楽学部長 川井 學  
 附属図書館長 上野 浩道  
 大学美術館長 竹内 順一  
 演奏芸術センター長 三林 輝夫  
 美術学部教授 増村紀一郎  
 美術学部教授 池田 政治  
 美術学部教授 藤幡 正樹  
 音楽学部教授 船山 隆  
 音楽学部教授 守山 光三  
 音楽学部教授 土田英三郎  
 事務局長 太田和良幸

## 部局長

事務局長 太田和良幸  
 美術学部長 六角 鬼丈  
 音楽学部長 川井 學  
 附属図書館長 上野 浩道  
 大学美術館長 竹内 順一  
 言語・音声トレーニングセンター長 畑 瞬一  
 演奏芸術センター長 三林 輝夫  
 芸術情報センター長 渡邊 健一  
 保健管理センター所長 宮田 亮平  
 留学生センター長 根木 昭  
 附属古美術研究施設長 絹谷 幸二  
 附属写真センター長 佐藤 時啓  
 附属音楽高等学校長 佐藤 眞

科の協力を得て展示したもので、なお、美術学部では第一回目から舞台美術、第三回の衣装デザインを担当している。

## 大学院映像研究科 設置構想を発表

五月三十一日、大学院映像研究科(仮称)(修士課程)の設置構想について記者発表した。映画、アニメーション及びメディア映像の三専攻からなり、設置場所は、横浜市みなとみらい地区等を予定している。平成一七年度は映画監督や脚本家などを育てる映画専攻を設置し、その後、順次年度計画によりほかの二専攻を設置する予定。映画専攻の学生募集等に関する詳細は、大学公式ホームページ(<http://www.geidai.ac.jp>)に掲載(十一月前後頃)。

## 芸大初のジャズコンサート

### 錚々たるメンバーが一堂に会す

七月十七日、本学における初の

ジャズコンサート「藝大21時の響き」ジャズ「響き」が本学音楽堂で開催された。出演者は本学教員とわが国ジャズ界を代表する錚々たるベテラン陣、名門ビッグバンドのブルー・コーツに加え、本学で代々引き継がれている現役学生バンドのMantle Vivoであったこともあり、企画公表直後から問い合わせが多数あるなど反響も大きく、演奏会一週間前にはすでにチケットは完売していた。演奏芸術センターでは、好評であったことを受け、来年度も同様の企画を立てたいとしている。



## 歴史的な横山大観 「海山十題」展開催

七月二十七日から八月二十九日まで、横山大観「海山十題」展を大学美術館で開催した。

近代日本画壇の巨匠・横山大観(一八六八―一九五八)は、昭和十五年(一九四〇年)に、自らの画業五〇年と紀元二六〇〇年を記念して、「海山十題」(通称「海山十題」といって〇幅の連作を描いた。昭和十五年四月に、「海に因む十題」と、「山に因む十題」が別会場で公開されて以降、一部が所在不明となっていたものが最近になって発見されたことにより一堂に会することができたもので、歴史的な展覧会と謳われた。

期間中の入場者数は約九万八〇〇〇人。八月十二日には桂宮宣仁親王殿下がご覧になりました。  
 主催・東京芸術大学、NHK、NHKプロモーション、協賛・DNP大日本印刷、三井住友海上火災保険株式会社、協力・横山大観記念館。なお、本展は足立美術館

## 音楽担当教員への 伝統音楽研修会を開催

(島根県安来市)に巡回した。

文部科学省と東京芸術大学は、平成十六年度伝統音楽研修会を本学音楽堂(八月十一日)、国立劇場(十二日)で開催した。この研修会は、音楽担当教員で都道府県における音楽教育の指導的立場に立つ者に、学習指導要領の趣旨を踏まえて日本の伝統音楽についての研修を行い、学校での音楽教育の改善・充実を図ることを目的として実施されたもので、本学は実技研修を担当した。

実技研修は、邦楽科教員の指導で都道府県等教育委員会の音楽担当指導主事、国公私立の小中高等学校等の音楽担当教員約一九〇名が参加して、箏、尺八、三味線、邦楽囃子(打楽器、篠笛)の和楽器ことに行われた。

第9号刊行にあたって

東京芸術大学法人化後の最初の芸大通信です。この冊子のニュース欄にご紹介いたしましたような、経営協議会、教育研究評議会、部局長のメンバーと、教員、学生が一同になって、新しい時代の芸術の創造と研究と教育の方向を真剣に模索し始めています。

芸大通信は、これまでの編集方針と紙面作りを踏まえつつ、本学の芸術探求のありかたについて、考え、ニュースを提供してまいります。今回の特集では、<留学生>に光をあててみました。本学で学ぶ留学生の数は、他は他大学に比べて多いとはいえませんが、本学のキャンパスで、地球的規模での芸術文化の交流と創造の場がうまれつつあり、上野の杜の狭いキャンパスが、世界にむけての芸術情報の小さな発信基地になりつつあります。

上野の杜のなかには、あまり知られていない「名所」があります。今回からの新連載の「芸大の歩き方」でご紹介しますので、おたのしみ。

藝大通信編集長  
船山隆